

# 伝承の大切さ訴える

## 南三陸で語り部シンポ

### 東日本 大震災 7年

震災伝承の方法や課題を考える「語り部シンポジウム」が25日、南三陸町のホテル観洋であった。震災から7年近くたって風化を懸念する声があり、参加者は教訓を後世に伝える大切さを訴えた。また、交流人口の拡大には語り部が不可欠との意見も強かった。

シンポは実行委員会（事務局・ホテル観洋）が主催し、今回で3回目。冒頭に行われた討論会には約400人が参加した。

討論会では、岩手県宮古市田老地区で活動する元田久美子さん（60）が、これまで延べ13万7千人に語って

きた経験を振り返った。「津波を経験した者だからこそ、これをつないでいかなければ。一時は海を嫌ったが、話をしている間に強くなった」と話し、「人が集まらないと街は元気にならない」と交流人口の拡大にも必要だと訴えた。

気仙沼市の元消防士、佐藤誠悦さん（65）はSNSを

